

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

イエローカードをいただきました。15番議員の指導のもとに、一生懸命僕もダイエットに努力しようかと思っております。

議長より登壇と発言の許可をいただきました18番、山内町の大渡幸雄です。さて、私をもちまして一般質問の最終日で、最後の質問者であります。ニューグループのG A B B A（がば）が目指している紅白歌合戦に例えれば大トリ、大相撲では千秋楽の横綱戦とでも申しましょうか、どうか最後までよろしく願いをいたします。しばらくのおつき合いをお願いしておきます。

きのうは、ビックでびっくりニュースが飛び込んでまいりました。安倍首相の辞意の表明です。臨時国会も今月10日に開会したばかりの出来事です。我が日本はどうなることか、心配するのは私一人だけでしょうか。

さて、ことしの夏はいろいろとありました。暗く悲しいことは、またまた新潟県中越沖地震、そして台風9号による災害、亡くなられた方の御冥福をお祈りし、被災された方々からお見舞いを申し上げる次第でございます。今市議会でも、多くの議員各位が防災に対する質問を行われたことは、これらのことを受けてからのことではないかと思えます。

またそして、明るく嬉しいことでは、全国高等学校総合体育大会が「2007青春・佐賀総体」、「この夏 佐賀に君色の風が吹く」をメインテーマとして佐賀県で開催され、当市でもバドミントン競技と自転車競技が会場となっております。中でも、自転車ロードレースでは、140名の選手が市内特設コースを5周回、約107キロメートル、一、二周回目の迫力のある集団での通過は、物すごい緊張感と感動を受けました。

また、これは各議員も取り上げられましたけれども、高等学校野球では県立佐賀北高校の優勝もほとんどの議員が取り上げられましたけれども、私もエースナンバー1の久保貴大君と同じ山内町生まれとして応援しなければならないという心境のもと、いても立ってもいられず、同僚議員と甲子園まで行き、一生懸命応援をしてきたところでございます。本当に、こつこつとやることの大事さを百崎監督と選手たちより学ばされました。佐賀商業の13年前と同じ感動をありがとうございました。ちなみに証拠でございます。（写真を示す）

なお、市報にも大々として取り上げていただきまして、本当にありがとうございました。

さて、通告順に質問をいたします。

まず第1に、合併のその後についてということで、1市2町が昨年3月に合併し、約5万2,000人の武雄市が誕生し、はや1年半が過ぎました。そこで、新市になり、旧市町時代より財政面とそれ以外の合併効果を分析され、それぞれどのように見ておられるか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成17年度決算、これ合併前でございますけれども、それと平成18年度決算見込み、合併後の初年度を比較したところで、大きなところで申し上げてみたいというふうに思います。

まず、歳出面でございますけれども、主に人件費が合併後の効果としてあらわれやすいというようなところで約230,000千円の削減となっております。このほか、合併によるスケールメリットによる効果というようなことで、物件費、補助費等で約190,000千円の減というようなことで、総額で約420,000千円の削減効果が出ているところでございます。

次に、歳入面でございますけれども、合併特例債の借り入れで約740,000千円、地方交付税による支援措置で380,000千円、国、県の補助金交付による支援措置で110,000千円など、合わせて13億円増の効果が出ているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思います。

その他の効果の分析についてということで、私のほうからお答えをしていきたいというふうに思います。

まず、市民の利便性の向上ということで、旧市町にあります体育施設などの公共施設の共有の利用ができるようになったこと。それと、住民票の発行等の窓口サービスが、居住地以外の旧市町の窓口でも利用可能になったこと。それと、生活の実態に即した保育所、その他の行政サービスを利用できるようになったこと。それから、行政サービスの向上といたしまして、広域的なまちづくりができるようになったこと。旧山内町、旧北方町の福祉行政も福祉事務所の所管となりまして、福祉事務所職員によりますきめ細かな行政サービスが展開できるようになったこと。それから、地域の知名度向上、イメージアップといたしまして、テレビドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」のロケに際しまして、旧武雄市、旧山内町、旧北方町の住民の皆さんがエキストラのオーディション等に多く応募いただき、また撮影に協力されるなど、市民一体となり取り組んだことも大きな効果だというふうに思っています。

以上のようなものについて、合併により効果があったものと分析をしています。

ただ、合併の効果があらわれるまでには一定の期間が必要ではないかなというふうに思っております。長期的な視野での検証が必要であるというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

首長として、合併の効果について申し述べたいというふうに思います。

まず、これは就任1年後の記者会見で申し上げましたけれども、異なる、あるいは異なる歴史を持つ自治体が組み合わさることによって、すなわち1+1+1がもう5に、あるいは10になっているという魅力があります。その1つの証拠が観光であります。

それともう1つが、ばらばらあった台所、財政基盤が1つになることにより、一定ちょっと強化がされたということでもあります。これがばらばら1つだと、平成23年度を待たずして、恐らく私は財政危機の宣言を出さなきゃいけなくなった。それが少し延びたと。その間、時間の猶予をいただいておりますので、財政基盤の強化に努めなきゃいけないと、そういったことでの効果はあったろうというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

財政面、また財政以外のその他の面、また市長の総括的な合併の効果ということである説明いただきました。確かに、財政のほうでもやっぱり1市2町時代をそのままプラスしていくよりも、1市2町の合併によって420,000千円の歳出面での削減ができた。また、その他の項でもるる説明いただきました。いろんな面で、今までわかっていないようなところも利用ができますよというような効果もあったと。

また、市長の総括では、1市2町単独でいっていたときには、恐らく旧山内町時代でも、私たち議員の中でも、「まあ10年はもつやろうばってん、あとどがんろうかのう」という話もした記憶がございます。そういう合併効果によって、次に向けての準備をする時間ができたということじゃなかるかと。そういった意味で執行部、また議会ともども一生懸命勉強し合って、財政面にも、いろんな面にもこの合併がよかったという方向を持っていきたいと思っております。合併してよかったという結論づけを見つけていきたいなと思っております。

次に、合併特例債の活用についてお尋ねをいたします。

合併特例債は、一言では合併市町村の一体性の速やかな確立を図る、または均衡ある発展に資するため行う公共的施設の整備事業ということでもあります。そこで、合併後特例債を活用した事業と、残りこれ10年だと思っておりますので、残り8年間の活用の方向性についてお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

合併特例債の構成についてでございますけれども、合併特例債の活用目的に基づきまして、18年度には白水唐原住宅線、それから武雄高橋線の市道改良工事、市道追分医王寺線、新橋陸橋改修工事、東川登小学校及び北方中学校の改築工事等に合併特例債を活用しています。この額といたしましては、約843,000千円というふうになっております。今年度は、昨年度

からの継続事業といたしまして、実施する市道の改良工事、東川登小学校及び北方中学校の改築工事等に活用することといたしております。額といたしまして、898,000千円ということでございます。

今後の合併特例債の活用につきましては、ことし6月に武雄市総合計画を策定してきており、この計画に基づき実施する事業で、かつ、新武雄市の一体性の確保、旧市町の均衡ある発展のための公共的施設の整備事業に活用していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

均衡ある発展という意味での活用をしたいというふうなことでございます。

ここ一般質問の中で、財政が乏しいとか、経済や財政再建団体ですか、そういうふうになると、怖いような話の中で、当市でも30%の持ち出しが必要なわけなんですけれども、均衡ある発展を目指し、一体性の速やかなる確立という意味を持って、いろんな事業に取り組んでいただきたいと思うわけでございます。

3番議員の質問の中で、箱物の要求もあったようなんですけれども、十二分に検討をなされ、できるならば均一ある発展ということで考えをいただきたいというふうに思っております。答弁はいいです。要りませんので。

次に、合併後の市民の皆様のいろんな声やお考えをどのようにして活用しているかということでございます。市民の皆さんの声及び考えの活用の方法、どのようになされているか、また、それに対しての回答はどうかを尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

現在の公聴体制につきましては、市長へのはがきを各公民館、本庁、支所に設置をしているほか、ホームページ上においても御意見、御要望のコーナーを設けております。あるいは今数はちょっと減っておりますけれども、市長と語ろう会の開催、市のホームページ、あるいは私のブログ、そして私はメールを公開しております。そういったところで、私や市の考えを伝える機会、そして意見をお聞きする機会をつくっております。そして、私はさまざまな集会に出ようというふうに心がけております。今、その際にでも「市長さん、あそこの道路ばどがなかしてください」とか、あるいは「ここは独居老人の皆さんの多かけんが、これは何とかできんですか」という生の声をいただいております。私を見かけた際には、ぜひそういうお声寄せをいただければありがたいと思います。また、この機会は積極的にふやしていきたいというふうに思っております。

あと、各種計画策定の段階で、必要に応じてパブリックコメントを実施しておりますが、

なかなか来ません。これはちょっとやり方を工夫しなければいけないというふうに思っております。

最後に、回答の方法については、はがきやメールによる場合は直接本人あてに回答をしております。ホームページ上に寄せられた御意見、御要望については、本人あてに回答するとともに、本人の許諾があればホームページ上に回答を公開しております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

今の樋渡市長に、どうやって市民の声を吸い上げておられますかと聞くのは、本当にもうやっておられることで、十二分過ぎるんじゃないかなろうかというふうに私も見ておりました。はがき、特にITを駆使した市長のブログとか、市のホームページの中でもメール等もかなり来ていると思います。パブリックコメント、また市長と語る会、あらゆる集会にも出ておられると、それは十分わかった上での御質問でありました。

そこで1つ、先ほど市報の9月号なんですけれども、これを見ている中で、旧山内町時代のことを言っただけなんですけれども、これが旧山内町の町報でございます。まあ、これはもう宝物といえますか、これが旧山内町時代の町報でございます。この中に、ここに町政目安箱というはがきがあります。裏にいろいろ書いていただいて、切り取って、そのまま出していただく。ここに差出人の名前もありますけれども、それは本人さんの自由でしょうけど、町政目安箱行きということで、切手も要りません。そういうのが、「町報やまうち」にはありました。これが2カ月に一遍、ちょっと厚手の紙で真ん中のほうに入っております。

なぜ私が言うかといいますと、若い方とか、極端にいいますと、いろいろコミュニティーバスとか、乗り合いタクシーとかいろいろあっていましたけれども、庁舎とか支所とか公民館に行ける方はそういうはがき等も自分で持って帰られますけれども、老人の方で、どうしても何か言いたかばってん、インターネットもしはえん、はがきも取りに行こうにもとりは行きえんというようなときに、山内町の場合は2カ月に1回ぐらい入っていました。市報の中で、3カ月か4カ月に一遍でも1枚でもあれば、切手を張らずに出せるような、そういうのも活用していただければ、今の市長の市民の声を吸い上げ方以上に、もっと入ってくるんじゃないかなろうかと思っておりますけれども、そういう方法は市長、どういうお考えになりますか、お願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

非常にいい案をいただきました。実は、私はそこを悩んでおりました。市長へのはがきと

いっても、全部私に寄せられる意見はすべて私のところに決裁を経て参ります。しかし、やっぱりなかなか少なかわけですね。いろいろ考えて、なぜだろうと思っていたときに、やはり自宅にそういったのが届く、それを書くといったことで、非常に私はいいい案だというふうに思っておりますので、ちょっと事務方ときちんと協議をいたしますけれども、3カ月に一遍、市報の中にぜひこれは取り入れていきたいというふうにしたいと思っております。

そして、先ほどのちょっと答弁の追加でございますけれども、まあ、私だけというふうに申し上げましたけれども、議員の皆さんも物すごく動いていただいております。議員の皆さんを通じて、議長もいろんなところに行事に出ておられます。頭が下がるくらいであります。そういったところでこういう意見を寄せていただいて、正副議長を初め議員の皆さんから、意見が私のところに参ります。こういう議会と我々執行部との関係もきちんとしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

本日の会議時間は、議事の都合上、あらかじめこれを延長いたします。18番大渡議員
18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

じゃあ、ぜひともこのはがきの折り込みを、折り込みと言ったらおかしいんですけども、刷り込みで折り込んでいただければ、プラスアルファの御意見が上がってくるんじゃないかなろうかと思っております。

合併後、いろんなところでいろんな話ももじゃもじゃと聞きますので、そういう意見が入ってくれば、いろんな今後の市政のやり方にも参考になるんじゃないかなろうかと思えます。以上、お願いをいたしておきます。

次に、ALTへの対応についてお尋ねをいたします。

ALT、アシスタント・リーディング・ティーチャー、現在当市には、北方に男性1名、武雄に男性2名と女性1名の計3名、山内に女性1名の合計5名が遠い国より来られています。ふるさとを離れ、異国の地で文化、習慣も違い、最初のほうは戸惑っておられることと思います。しかし、大人ですのでそれなりの覚悟はして来ていらっしゃると思います。

まず最初に、ALTの方々はJETプログラムによって来られていると聞いております。しかし、このJETプログラムというのがわかっておりませんので、どのようなプログラムシステムなのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えいたします。

JETプログラムは、正式名称を語学指導等を行う外国青年招致事業で、文部科学省だけ

でなくて、総務省、外務省、文部科学省の協力のもと、財団法人自治体国際化協会が事業を実施しております。

J E Tプログラムは、外国語教育の充実と地域レベルの草の根の国際交流の進展を図ることと諸外国との相互理解を深め、国際化の促進を目的とした事業であるということでありませす。

現在、今お話にありましたように、市内5人すべてがA L Tとして小・中学校に勤務してもらっているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

どうもありがとうございました。

次に、本題に入っていきます。

A L Tの方々は市民の方々と交流をし、その中に一生懸命溶け込もうとしておられます。冒頭に申し上げましたけれども、異国の地にひとりぼっちで来日しております。不安もあるでしょう。

旧山内町では、A L Tは地域の中に入り込み、例えば夏祭り、俗に祇園さんと言いますけれども、この踊りに出演をいたしております。そして秋祭り、これは彼岸ごもりとか俗に言っておりますけれども、特に三間坂の荒踊りにも出場いたしました。このことに対して、教育長はどのような、これを聞かれまして、実際ごらんになってはいないと思うんですけども、想像していただき、どのような御感想をお持ちか、お願いをいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

先ほど申しました事業の一つのねらい、地域レベルの草の根の国際交流の進展を図るという思いでA L Tの方、そういう形で積極的に参加していただいているんじゃないかというふうに思っております。職務を通してだけの交流じゃなくて、積極的にしていただいているのをありがたく思っております。

教育委員会としましても、本来の業務、個々に支障のない限りにできるだけ応援をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

よろしくお願ひいたします。

この夏祭りで、去年ですかね、男性のA L Tが 去年じゃなく、おととしにA L Tの先

生が、この方が日本人よりもかっぱからげて三度笠の姿が似合っていて、また踊りも上手だったんです。これは地域の方がおひねりをかなり渡された光景も鮮明に記憶をいたしております。そういった意味で、地域に一生懸命根づこうと交流を続けております。

先ほど、サポートもしていきたいというふうなことでございますが、在住時のサポートについてもお尋ねをいたします。

彼らが住む住居、その中にある備品についてですが、旧山内町は外国人教師宿舎、官舎みたいなところですけども、そして、平成2年に建築、その後17年余りたっております。その間、いろいろとALTの交代時には教育委員会の方々が手を入れて、整備等してもらっていたと思います。しかし、職員によるクリーニングはしてもらったものの、畳は古く、壁紙はしみていて、おまけにダニまでいたと。ダニは、まず入る前にバルサンにて処理をさせていただいたと聞いております。しかし、これは余りにもひどいと思いませんか。私たちでも、そこまであるアパートには当然入りません。昨日の16番議員の町の職人さん制度でも利用できませんでしょうか。

ちなみに、旧北方、武雄では、市で借り上げられたアパートということですが、ここも交代時にはきれいにすべきだと思いますが、教育長の見解をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

ALTの住まいにつきましては、5人のうち4人の方は民間のアパートを市のほうでお借りしまして、そこに住んでいただいていると、そういう状況です。それで、山内地区につきましては、従来から、今議員おっしゃいましたような形で、官舎という形でありましたので、そこに入らせていただいているというような状況でございます。

それで、議員御指摘の件ですけれども、一応帰国をされた後、市の職員が部屋の確認をということも含めまして清掃に行っておるわけですけれども、なかなか行き届かなかったというような面はあるようでございます。

部屋の状況とか備品の状況、今ときどきエアコンが故障するとか、そういうふうな話もちょっと聞いておりますので、今後補修、あるいは改善をするというようなことで手を入れていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

じゃあ、今後やってもらえるということですので、一応調べたのがありますので、ちょっと読ませていただきます。

先ほど出ました。備品に対しては、ベッドが壊れたが、備品だったためどうすることもできず、自分でかえたいと言ったがだめと言われ、しかし何の連絡もなく、とうとう自分で買った。エアコンが壊れ、連絡後1年半後ようやく修理してもらった。また、別なところは半年後ようやく修理してもらった。

これは、なんか備品ということでどうしようもなかった。しかし、やっぱりある程度の対応を即お願いしたいと思います。畳、壁、電化製品がどんどん古くなったり、壊れていくというようなことでございます。

そして、次に、スケジュールについてお尋ねをいたします。これもちょっとA L Tの皆さん方の聞き取りを参考にさせていただきます。

まず、彼らは、日本に来たすぐといいますが7月ぐらいで、夏休みから9月からですね。夏休み中に入ってきて、9月から1年間で彼らの1年間のスケジュールなんですけれども、まず、いつ何があるのかわからなかったと。1年目ですから当然わからないと思います。特に休日出勤といいましょうか、土曜、日曜に学校行事があるとき、前もって教えてほしかったと。というのが、彼らは土日が休みという判断をしております、行事を入れていたところ、何のあつとよというのが後で来た。これも解消するには、もう前もってミーティングをしておけば問題ないと思います。なぜこうなったか、ちょっと私もわかりません。特に複数の学校を担当しているA L Tになれば、学校別にいろんなスケジュールがあると思います。特に把握をしにくいというようなことで、密に、わかりやすく打ち合わせをしてほしいというふうに思います。特に、また大事な連絡がぎりぎりというのは、きょう言うてあしたじゃないかなというふうに思っております。

それと、1人のA L Tに伝えるとみんなに伝わっているというようなこともあったと。だから、全員にやっぱり確実に伝えると。また、武雄地区以外のA L Tから重要な事項を知ることあったと。

以上、いろんな苦情的なものと言ったらおかしいですけども、私が思うには、やっぱり事前に話し合いをし、年間カレンダーの中でもこの日は体育祭よとか、この日は卒業式よとか、特にいろんな土日にかかわるもの、そういう年間のスケジュール表でも目の前でやっぱりやるべきじゃないかというふうに考えますが、見解を求めます。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

おっしゃいますように、ふなれな状況の中で精いっぱいやっていただいております。その中で確認調整が不十分だったという点を、私のほうも質問いただきましてからまた再度確認をしたところであります。そういう面につきましては、早速、今回今度の校長会等を含め、担当等への指導、あるいは教頭、教務との連絡調整、そのあたりの徹底を図っていきたく

いうふうに、気持ちよく仕事をしていただけるように頑張っていきたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

特に1年目をよろしく御指導方、お願いしたいと思えます。こういう場合に、だれに言っ
ていいのかわからないと、だれに頼っていいのかわからないと、担当者がだれだかわからな
いというのもありますので、あわせてそこも徹底をお願いしたいと思っております。

特に冒頭私が言いました防災に関しても、彼らも住民の一員ですので、どうやって避難す
ればいいのかということもあわせて。それもその担当者に言っていただければ、一緒にこが
んして逃げ まだ一緒にいませんので、ここに避難するということをやっていただけ
ればよいと思えます。あわせてお願いをいたします。

最後になりましたけれども、帰国時の対応ということでお尋ねをいたします。

山内町のALTが、ことし8月5日午前7時に帰国をいたしました。今来ている人はこと
しからの、初めての人なんですけれども、前2年いたALTがことしの8月5日に帰国をい
たしております。彼は、冒頭に言いましたように、地域の中と市民との中に本当に十二分に
溶け込んで、山内町を第2のふるさととまで言えるようになっていました。さきにも述べま
したとおり、夏と秋祭りの踊りとまた各種の行事にも積極的に、町民の一人として参加をし
ていました。

山内町民となった彼が、帰るときに、見送りになんと町民の方々が80名集まっていたさ
きました。彼の目と見送りの町民の方々の目からは大粒の涙が流れ、なかなか別れず、出発が
おくれ、いざ帰国の途へ。そして、双方の口から何と言ったと思えますか。「いってらっし
ゃい」「すぐ帰ってくるばい。行ってくるばい」とお互いに、双方からこういう声が出てま
いりました。この光景を見れば、本当に日本的な、まあ日本人になったな、山内町民であ
ったなというふうに考えました。そこで、その見送りの中に、残念ながら役所の方はおられ
ませんでした。やっぱり町民の方は、固有名詞出しますけれども「タン先生、タン先生」
「タンちゃん、タンちゃん」ということで、本当に町民として、また中学校の生徒にはお兄
さんの存在である彼の見送りに、本当に残念ながら役所の方がいらっしゃらなかったとい
うことは、僕も残念でありませんでした。そのことについて見解をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

目的に沿って、精いっぱい頑張ってくださいましたALTの方、最後の見送りという段階で、
こちらからだれも出向いていなかったということにつきましては、非常に申しわけ思っており
ます。誠心誠意やりたいという思いでしていただいております。そういう面からも非常に深く

反省しておるところです。また、不十分な点については、お知らせ等もいただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

今後、もうだれでも一緒の言葉なんですけれども、本当に1年、2年、3年、単年度で更新なんですけれども、長くいればいるほどやっぱり愛着がわきます。しかし、1年でも頑張っただけで地域に溶け込んだ人は、やっぱりそこを後にするときには、みんなの顔を見たいと思っております。特に市の職員といいましょうか、市のほうでJETプログラムによって派遣されたALTの先生ですので、市の職員と同等というようなことで私も考えておりますので、どうか1人に対して1回きりですので、温かく迎えるならば温かく見送りをしてやっていただきたいというふうに思います。

以上、正すところは正し、お願いするところはお願いし、私の質問を終わります。